



# 精神疾患を 合併した、或いは 合併の可能性のある 妊産婦の診療ガイド

各論編

2021 年 4 月

Clinical Guide for Women  
with Mental Health Problems during Perinatal Period

監修 日本精神神経学会 日本産科婦人科学会

編集 「精神疾患を合併した、或いは合併の可能性のある妊産婦の診療ガイド」作成委員会

## 序

日本精神神経学会・日本産科婦人科学会  
「精神疾患を合併した、或いは合併の可能性  
のある妊産婦の診療ガイド」作成委員会

妊娠、出産は、妊産婦の身体面だけでなく精神面にもさまざまな影響を及ぼす。すこやかな妊娠、出産のためには、妊産婦のメンタルヘルスへの適切な配慮が不可欠である。これまで、妊産婦のメンタルヘルスに関するガイドラインやガイドは、産婦人科では、2020年に『産婦人科診療ガイドライン—産科編 2020』（日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会）、『周産期メンタルヘルス コンセンサスガイド 2017』（日本周産期メンタルヘルス学会）、『妊産婦メンタルヘルスケアマニュアル』（日本産婦人科医会）が作成されており、精神科では、『日本うつ病学会治療ガイドライン II. うつ病 (DSM-5)/大うつ病性障害 2016』において妊産婦のうつ病が取り上げられている。

妊産婦のメンタルヘルスを考えるには、産婦人科と精神科の両専門領域の協働が理想であるが、従来、両領域の緊密な連携のもとに作成されたガイドラインはなかった。日本精神神経学会のガイドライン検討委員会では、両領域協働での『精神疾患を合併した、或いは合併の可能性のある妊産婦の診療ガイド』の作成をめざし、日本精神神経学会と日本産科婦人科学会の連絡会を立ち上げ、両学会のそれぞれの視点からの検討を重ね、2020年5月に『精神疾患を合併した、或いは合併の可能性のある妊産婦の診療ガイド：総論編』（日本精神神経学会・日本産科婦人科学会）を策定した。本診療ガイドはその各論編である。妊産婦にお

いて注意すべき精神疾患と精神科的問題、妊産婦と向精神薬、医療・保健・福祉の連携をとりあげ、産婦人科医と精神科医向けに、『精神疾患を合併した、或いは合併の可能性のある妊産婦の診療ガイド：各論編』（日本精神神経学会・日本産科婦人科学会）としてまとめたものである。妊産婦のメンタルヘルスに関しては、総論編と同様、わが国におけるエビデンスは多くなく、今回は海外の文献も参考にした。エビデンスが十分でなく、現在のところはエキスパート・コンセンサスの域を出ないと考え、指針としてのガイドラインではなく、解説としてのガイドとした。したがってエビデンスレベルや推奨グレードの表示は行っていない。本ガイドは完全なもの、絶対的、恒久的なものではなく、医学の進歩により将来的には変わりうる流動的なものであり、1つの目安と考えていただきたい。また本ガイドは法的な規範になるものではないことをお断りしておく。

今後、本ガイドは新たなエビデンスや情報により、アップデートされていくべきものである。また産婦人科医と精神科医だけでなく、行政や多職種との連携・話し合いのツールとなることもめざしている。さらに当事者とその家族向けのガイドは必須であり、今後検討していく。本ガイドが、妊産婦のメンタルヘルスに資し、すこやかな妊娠、出産の一助となれば幸いである。

# 精神疾患を合併した，或いは合併の可能性のある妊産婦の診療ガイド 各論

精神神経学雑誌 2022 Vol. 124 別冊 目次

- G37 序
- G39 執筆者一覧
- G42 本ガイドの使用にあたって
- G44 各論 1-1 うつ病 うつ病の特徴と診断  
G47 各論 1-2 うつ病 うつ病の治療と対応
- G55 各論 2 双極性障害
- G62 各論 3 統合失調症
- G67 各論 4 不安症，強迫症
- G72 各論 5 摂食障害
- G76 各論 6 アルコール，薬物依存
- G80 各論 7 パーソナリティ障害
- G86 各論 8 神経発達症（発達障害）を合併した，または合併が疑われる妊産婦の対応  
—通常と異なった発達障害特性のため生活上の困難がある妊産婦への対応—
- G94 各論 9 てんかん
- G103 各論 10 睡眠-覚醒障害
- G108 各論 11 ボンディングとその形成不全
- G114 各論 12 妊産婦と向精神薬
- G127 各論 13-1 医療・保健・福祉の連携 アウトリーチ  
G134 各論 13-2 医療・保健・福祉の連携 精神科救急
- G139 利益相反
- 巻末 改訂情報，発行者情報

## 監 修

日本精神神経学会・日本産科婦人科学会

## 編集 「精神疾患を合併した、或いは合併の可能性のある妊産婦の診療ガイド」作成委員会

委員長

鈴木利人（順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院メンタルクリニック）

委員

（50音順）

小笠原一能（名古屋大学医学部附属病院卒後臨床研修・キャリア形成支援センター）

尾崎紀夫（名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野）

鹿島晴雄（医療法人葛野会木野崎病院精神科）

小谷友美（名古屋大学医学部附属病院総合周産期母子医療センター）

佐藤昌司（大分県立病院総合周産期母子医療センター）

下屋浩一郎（川崎医科大学附属病院産婦人科）

鈴木映二（東北医科薬科大学医学部精神科学教室）

鈴木俊治（葛飾赤十字産院）

立花良之（国立成育医療研究センターこころの診療部乳幼児メンタルヘルス診療科）

執筆者

（50音順）

伊藤直樹（帝京大学医学部小児科）

伊藤結生（秋田大学大学院医学系研究科精神科学講座）

薄井健介（東北医科薬科大学薬学部）

白倉 瞳（東北大学災害科学国際研究所災害精神医学分野）

馬越秋瀬（秋田大学大学院医学系研究科精神科学講座）

衛藤英理子（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科産科・婦人科学）

小笠原一能（名古屋大学医学部附属病院卒後臨床研修・キャリア形成支援センター）

尾崎紀夫（名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野）

小嶋真奈（筑波大学医学医療系総合周産期医学）

小原 拓（東北大学病院薬剤部）

鹿島晴雄（医療法人葛野会木野崎病院精神科）

加藤昌明（むさしの国分寺クリニック）

河西千秋（札幌医科大学医学部神経精神医学講座）

菊地紗耶（東北大学病院精神科）

岸本真希子（国立成育医療研究センターこころの診療部乳幼児メンタルヘルス診療科）

木村宏之（名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野）

國井泰人（東北大学災害科学国際研究所災害精神医学分野）

小泉典章（長野県精神保健福祉センター）

小谷友美（名古屋大学医学部附属病院総合周産期母子医療センター）

佐藤 昌司（大分県立病院総合周産期母子医療センター）

下屋浩一郎（川崎医科大学附属病院産婦人科）

杉山 隆（愛媛大学医学部附属病院産婦人科）

鈴木映二 (東北医科薬科大学医学部精神科学教室)  
鈴木俊治 (葛飾赤十字産院)  
鈴木利人 (順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院メンタルクリニック)  
清野仁美 (兵庫医科大学精神科神経科学講座)  
武島 稔 (明心会柴田病院)  
立花良之 (国立成育医療研究センターこころの診療部乳幼児メンタルヘルス診療科)  
多門裕貴 (国立成育医療研究センターこころの診療部乳幼児メンタルヘルス診療科)  
登美斉俊 (慶應義塾大学薬学部)  
中川敦夫 (慶應義塾大学医学部精神神経科学教室)  
西郡秀和 (福島県立医科大学ふくしま子ども・女性医療支援センター)  
西園マーハ文 (明治学院大学)  
根本清貴 (筑波大学医学医療系精神医学)  
原 恵子 (原クリニック)  
樋口 進 (独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター)  
平賀正司 (東京都立精神保健福祉センター)  
細谷倫子 (秋田大学大学院医学系研究科精神科学講座)  
牧野真太郎 (順天堂大学医学部附属浦安病院産婦人科)  
増山 寿 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科産科・婦人科学)  
松永寿人 (兵庫医科大学精神科神経科学講座)  
三島和夫 (秋田大学大学院医学系研究科精神科学講座)  
光田信明 (大阪府立病院機構大阪母子医療センター)  
山下 洋 (九州大学病院子どものこころの診療部)  
山田和男 (東北医科薬科大学)  
湯本洋介 (独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター)  
吉田敬子 (医療法人風のすずらん会メンタルクリニックあいらす)

日本精神神経学会  
ガイドライン検討委員会  
(50音順)

鶴飼万貴子 (白水法律事務所)  
尾崎紀夫 (名古屋大学大学院医学系研究科 精神医学・親と子どもの心療学分野)  
鹿島晴雄 (医療法人葛野会木野崎病院精神科)  
金生由紀子 (東京大学大学院医学系研究科こころの発達医学分野)  
神庭重信 (栗山会飯田病院精神科・日本うつ病センター)  
木ノ元直樹 (木ノ元総合法律事務所)  
久住一郎 (北海道大学大学院医学研究院精神医学教室)  
佐久間 啓 (社会医療法人あさかホスピタル)  
仙波純一 (東京愛成会たかつきクリニック)  
中川敦夫 (慶應義塾大学医学部精神神経科学教室)  
細田真司 (こころの診療所細田クリニック)  
前田貴記 (慶應義塾大学医学部精神神経科学教室)  
森 隆夫 (あいせい紀年病院)  
吉村公雄 (慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教室)

日本産科婦人科学会  
周産期委員会 (50音順)

池田智明 (三重大学医学部産婦人科)  
工藤美樹 (広島大学医学部産婦人科)  
齋藤 滋 (富山大学学長)  
左合治彦 (国立成育医療研究センター)  
佐藤昌司 (大分県立病院総合周産期母子医療センター)

作成協力  
(50音順)

下屋浩一郎 (川崎医科大学産婦人科学 1)  
杉山 隆 (愛媛大学医学部産婦人科)  
関沢明彦 (昭和大学病院産婦人科)  
藤森敬也 (福島県立医科大学産婦人科)  
増山 寿 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 産科・婦人科学)  
三浦清徳 (長崎大学医学部産婦人科)  
光田信明 (大阪母子医療センター)  
田中博明 (三重大学医学部産婦人科 / 日本産科婦人科学会専門委員会幹事)

倉田知佳 (日本精神神経学会精神医療・精神医学情報センター)  
田村法子 (日本精神神経学会精神医療・精神医学情報センター)

(2021年3月時点)



### 本ガイドの使用法

本ガイドは、精神科医、産婦人科医をはじめとした医療スタッフが適切かつ妥当に診療或いはそのサポートを行うための臨床的判断を支援する目的で、現時点における医学的知見に基づいて作成されたものである。個々の患者の診療は、その患者のすべての臨床データをもとに主治医によって個別に決定がなされるべきものである。したがって、本ガイドは医師の裁量を拘束するものではない。また、本ガイドは、すべての患者に適用されるものではなく、患者の状態を正確に把握したうえで、それぞれの診療の現場で参考とされるために作成されたものである。

「精神疾患を合併した、或いは合併の可能性のある妊産婦の診療ガイド」作成委員会は、本ガイドの記載内容については責任を負うが、個々の診療行為についての責任を負わない。また、本ガイドの内容は医療訴訟対策などの資料となるものではない。本ガイドの記載文言と一致しないことを根拠に医療過誤と短絡することは、本ガイドの誤用であることを銘記されたい。

## 注記：妊娠期間の区分の記載について

基本的な事項であるが、精神科スタッフが産婦人科側と連携するにあたり、妊娠期間は通常以下のように3分割して認識されていることを念頭におく必要がある。

- 第1三半期（妊娠初期）：～13週6日
- 第2三半期（妊娠中期）：14週0日～27週6日
- 第3三半期（妊娠末期）：28週0日～